

第208回 (23/ I期)

群馬県内企業経営動向調査

(ビジネス・サーベイ)

群馬経済研究所研究員 井草祐美

◆調査概要

～業況判断DIは、各種原材料費の高騰などにより、2期ぶりのマイナスとなる～

- 2023年1～3月期の県内企業の業況判断DIは△10.4と、原材料費の高騰に伴う業況の悪化から、2期ぶりのマイナスとなった。
- 内訳項目をみると、生産・販売（売上・受注）DIは2期ぶりの「減少」超となった。製商品（販売）価格DIは「上昇」超幅が縮小、原材料（仕入）価格DIは大幅な「上昇」超が継続し、採算DIは「悪化」超幅が拡大した。人員判断DIは「不足」超が続いた。
- 業種別の業況判断DIでは、製造業が△17.6、非製造業が△4.9となり、13業種中10業種で「悪化」超（10頁）となった。製造業では、生産・販売（売上・受注）DIの「減少」超が目立つ。また、製造業、非製造業ともに、原材料（仕入）価格の上昇を製商品（販売）価格に転嫁しきれていない状況である。
- 経営上の問題点では、「原材料費の値上がり」が引き続き最多となり、「求人難」「売上・受注の停滞、減少」が続いた（15頁）。
- 2023年4～6月期の業況判断DIは2.1と「好転」超に転じる見通しである。

項目別DI推移

(数字の前の「△」はマイナスを意味する)

年・月期	業況判断	生産・販売 (売上・受注)	製商品 (販売) 価格	原材料 (仕入) 価格	採 算	設備投資	資金繰り	在庫水準	人員判断
20・10～12	3.1	2.5	△ 2.1	10.9	△ 5.5	△ 7.1	1.8	△ 5.5	△17.6
21・1～3	△19.0	△21.9	△ 3.7	21.5	△20.5	△10.7	△ 1.5	△10.2	△17.1
4～6	△ 9.1	△12.1	2.4	32.1	△18.0	△ 4.8	2.3	△ 6.9	△17.1
7～9	△ 2.8	△ 6.0	2.9	42.1	△17.5	△ 6.7	2.8	△ 9.7	△25.3
10～12	1.5	5.5	13.0	60.1	△16.5	△ 2.3	1.8	△ 3.1	△26.3
22・1～3	△18.9	△18.1	12.6	61.4	△30.8	△ 5.9	△ 4.2	△ 4.3	△28.4
4～6	△ 7.2	△ 5.8	23.8	74.3	△25.6	△ 7.6	△ 2.3	△ 7.9	△26.8
7～9	△ 6.2	△ 3.2	27.1	71.8	△27.3	△ 8.2	△ 0.2	△ 8.5	△33.2
10～12	2.2	5.0	30.3	69.6	△19.2	△ 5.2	△ 1.9	△ 6.5	△37.0
23・1～3	△10.4	△10.6	24.3	62.7	△24.2	△ 4.5	△ 4.7	△12.3	△35.7
(前 期 比)	(△12.6)	(△15.6)	(△ 6.0)	(△ 6.9)	(△ 5.0)	(0.7)	(△ 2.8)	(△ 5.8)	(1.3)
(前回予測比)	(△ 6.3)	(△ 9.5)	(3.6)	(8.9)	(△ 7.5)	(4.6)	(△ 3.0)	(△ 9.4)	(1.2)
23・4～6見通し	2.1	4.4	23.4	51.4	△ 9.7	△ 3.0	△ 3.0	△ 5.2	△33.1
(前 期 比)	(12.5)	(15.0)	(△ 0.9)	(△11.3)	(14.5)	(1.5)	(1.7)	(7.1)	(2.6)
D I	好転－悪化	増加－減少	上昇－低下	上昇－低下	好転－悪化	増加－減少	余裕－窮屈	不足－過剰	過剰－不足

◆調査要領

1. 調査の目的

群馬県内の景気動向と先行きを予測し、県内主要産業の実態を把握する。

2. 調査対象企業

群馬銀行の取引先を中心に1034社

回答社数434社（回答率42.0%）うち製造業188社 非製造業246社

3. 調査方法

記名式で当研究所の指定した項目について、その実績と見通しを記入するよう依頼した。

4. 調査時期

2023年2月上旬～3月上旬

5. 調査対象期間

2023年1～3月期実績、2023年4～6月期見通し（前期比）

◆回答状況

調査回答数

	会社数	構成比 (%)	うち 中小企業	地域別		
				中央部	東 部	その他
製 造 業	188	43.3	182	71	91	26
食 料 品	22	5.1	22	12	8	2
織 維	8	1.8	8	1	6	1
木 材 木 製 品	6	1.4	6	3	1	2
窯 業 土 石	8	1.8	8	3	2	3
電 気 機 器	17	3.9	16	5	9	3
輸 送 機 器	28	6.5	25	8	19	1
金 属 製 品	35	8.1	35	9	21	5
一 般 機 械	18	4.1	18	13	5	0
そ の 他	46	10.6	44	17	20	9
非 製 造 業	246	56.7	236	129	63	54
卸 売 業	45	10.4	44	27	14	4
小 売 業	38	8.8	32	27	7	4
建 設 業	62	14.3	60	28	16	18
サ ー ビ ス 業	101	23.3	100	47	26	28
合 計	434	100.0	418	200	154	80

注1：地域別

中央部…前橋・高崎地域
東 部…桐生・伊勢崎・太田・館林地域
その他…上記以外の地域

注2：中小企業

製造業……資本金3億円以下または
従業員300人以下
卸売業……資本金1億円以下または
従業員100人以下
小売業……資本金5千万円以下または
従業員50人以下
サービス業…資本金5千万円以下または
従業員100人以下

注3：その他の製造業に含まれる業種

パルプ・紙・紙加工品製造業
印刷・同関連業
化学工業
石油製品・石炭製品製造業
プラスチック製品製造業
ゴム製品製造業
その他、他に区分されない製造業

■本文中にあるDIについて

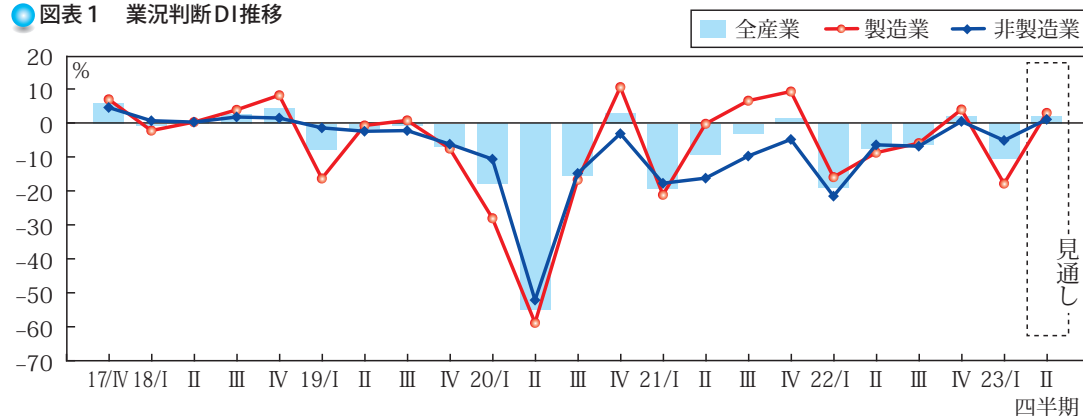
DIは、ディフュージョン・インデックス(Diffusion Index)の略。好転した企業の割合から悪化した企業の割合を差し引いたもので、企業経営者の景況判断をみる指標である。

例えば、回答した企業のうち30%の企業で生産が増加し、10%の企業が減少した場合、DI値は「 $30 - 10 = 20$ 」となる。DI値は、好不況等の浸透度を測るためのもので、量的大きさを測ることを直接の目的としていない。このため、DI値から生産が高水準であるのか、低水準であるのかの判断が困難な面もあるので、従来からの推移をみて増加傾向にあるのか、低下傾向にあるのかを判断する。

1. 自社業況判断

～原材料費の高騰などにより、2期ぶりのマイナスとなる～

●図表1 業況判断DI推移



	22/Ⅳ 実績	23/Ⅰ(1-3月)		23/Ⅱ 見通し
		前回予測	実績	
好転	14.9	(10.4)	13.2	14.8
変わらず	72.4	(75.1)	63.2	72.5
悪化	12.7	(14.5)	23.6	12.7
全産業DI	2.2	(△4.1)	△10.4	2.1

製造業DI	4.2	(△1.1)	△17.6	3.2
食料品	0.0	(0.0)	△31.8	△4.5
繊維	△12.5	(△50.0)	△37.5	0.0
木材木製品	△16.7	(△16.6)	△33.3	0.0
窯業土石	△12.5	(△12.5)	0.0	△37.5
電気機器	12.5	(6.3)	11.8	0.0
輸送機器	18.5	(18.5)	△28.6	17.9
金属製品	17.2	(△2.9)	△8.6	17.1
一般機械	5.8	(△11.7)	△16.6	△5.6
その他	△6.7	(2.2)	△19.5	0.0
非製造業DI	0.7	(△6.3)	△4.9	1.3
卸売業	△2.0	(△4.0)	△4.4	11.1
小売業	5.4	(0.0)	5.3	0.0
建設業	△7.2	(△11.6)	△1.6	△3.2
サービス	6.2	(△6.2)	△11.0	0.0

【23年1～3月期】

○全産業

資源価格の高騰、各種原材料費の高騰などの影響で、全体のDIは△10.4とマイナスに転じた。

○製造業

食料品、繊維、木材木製品、輸送機器などで「悪化」超が目立つ。また、ほぼすべての業種で、上昇し続ける原材料（仕入）価格の高騰分を製商品（販売）価格に転嫁しきれず、採算が悪化している。製造業全体のDIは△17.6と、「悪化」超に転じた。

○非製造業

小売業は乗用車販売が好調であった。一方で、エネルギー価格の高騰などを価格転嫁できず、運輸・倉庫を中心にサービス業で悪化が増加した。非製造業全体のDIは△4.9と、「悪化」超に転じた。

【23年4～6月期（見通し）】

○全産業

DIは2.1と「好転」超となる見通し。

○製造業

「好転」超に転じる見通し。

○非製造業

「好転」超に転じる見通し。

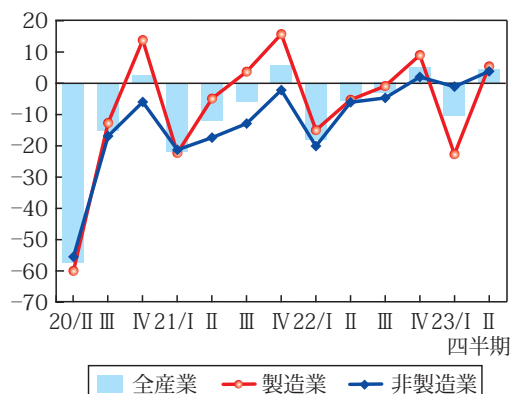
2. 項目別動向

(1)生産・販売(売上・受注)

～「減少」超へ転じる～

	22/Ⅳ 実績	23/Ⅰ(1-3月) 前回予測	23/Ⅰ 実績	23/Ⅱ 見通し
増 加	21.3	(16.1)	17.1	18.9
横ばい	62.4	(66.7)	55.2	66.6
減 少	16.3	(17.2)	27.7	14.5
全産業DI	5.0	(△1.1)	△10.6	4.4
製造業DI	8.9	(0.0)	△22.8	5.3
食料品	11.1	(0.0)	△27.3	9.1
繊維	△25.0	(△50.0)	△62.5	0.0
木材木製品	△16.7	(△16.6)	△33.3	0.0
窯業土石	0.0	(△12.5)	△12.5	△12.5
電気機器	18.7	(0.0)	0.0	△5.9
輸送機器	22.2	(29.6)	△25.0	14.3
金属製品	14.3	(△5.8)	△20.0	17.2
一般機械	5.9	(△5.8)	△22.2	0.0
その他	4.4	(2.2)	△23.9	0.0
非製造業DI	1.9	(△2.0)	△1.2	3.7
卸売業	2.0	(2.0)	△4.4	8.9
小売業	5.4	(5.4)	7.8	△5.3
建設業	△11.6	(△4.4)	6.5	4.9
サービス	10.4	(△5.2)	△8.0	4.0

● 図表2-1 生産・販売(売上・受注)DI推移(23/Ⅱは見通し)



【23年1～3月期】

○製造業

ほぼすべてで「減少」超となった。全体でも大幅な「減少」超に転じた。

○非製造業

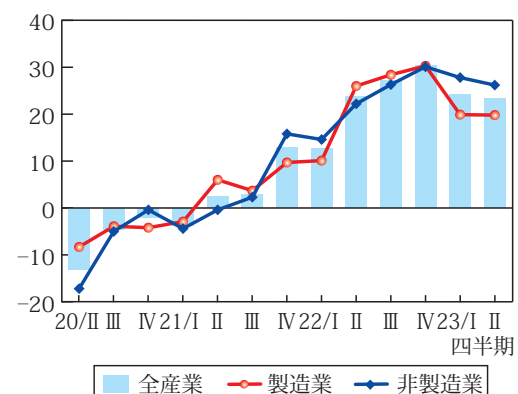
乗用車販売などの小売業は「増加」幅が拡大したが、運輸・倉庫をはじめとしたサービス業で「減少」超となり、全体でも「減少」超に転じた。

(2)製商品(販売)価格

～「上昇」超幅が縮小～

	22/Ⅳ 実績	23/Ⅰ(1-3月) 前回予測	23/Ⅰ 実績	23/Ⅱ 見通し
上 昇	32.6	(25.1)	27.4	25.5
横ばい	65.1	(70.5)	69.5	72.4
低 下	2.3	(4.4)	3.1	2.1
全産業DI	30.3	(20.7)	24.3	23.4
製造業DI	30.3	(20.8)	19.9	19.8
食料品	37.0	(44.4)	19.1	38.1
繊維	25.0	(△12.5)	0.0	0.0
木材木製品	16.6	(△16.7)	0.0	0.0
窯業土石	62.5	(37.5)	37.5	75.0
電気機器	18.8	(25.0)	17.6	11.8
輸送機器	23.1	(11.5)	10.7	10.7
金属製品	28.5	(14.2)	17.1	17.1
一般機械	11.8	(11.8)	16.7	5.6
その他	40.0	(26.7)	33.3	24.4
非製造業DI	30.1	(20.6)	27.8	26.2
卸売業	57.2	(30.6)	57.8	37.8
小売業	40.5	(29.7)	42.1	36.9
建設業	21.2	(16.7)	25.4	23.7
サービス	17.8	(14.5)	9.4	17.9

● 図表2-2 製商品(販売)価格DI推移(23/Ⅱは見通し)



【23年1～3月期】

○製造業

上昇が続く原材料(仕入)価格を製商品(販売)価格に転嫁しきれず、「上昇」超幅が縮小した。

○非製造業

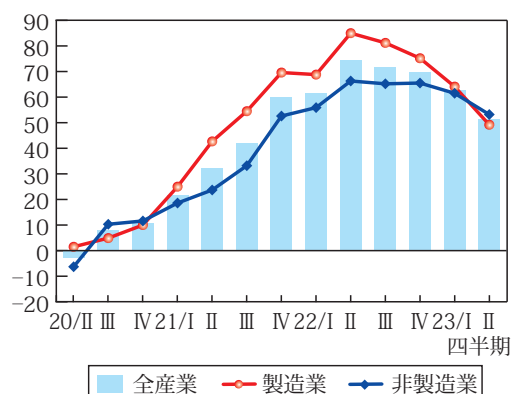
全業種で「上昇」超の推移となった。特に小売業のうち、スーパー・量販店で「上昇」超幅が大きくなっている。

(3)原材料（仕入）価格

～大幅な「上昇」超が続く～

	22/Ⅳ 実績	23/Ⅰ(1-3月) 前回予測	23/Ⅰ(1-3月) 実績	23/Ⅱ 見通し
上 昇	70.1	(55.4)	64.1	51.9
横ばい	29.4	(43.0)	34.5	47.6
低 下	0.5	(1.6)	1.4	0.5
全産業DI	69.6	(53.8)	62.7	51.4
製造業DI	75.2	(55.1)	64.1	49.2
食料品	92.6	(70.4)	81.9	72.7
繊維	100.0	(62.5)	87.5	75.0
木材木製品	△16.7	(0.0)	△16.7	0.0
窯業土石	87.5	(75.0)	87.5	100.0
電気機器	75.0	(50.0)	70.6	52.9
輸送機器	81.5	(51.9)	50.0	28.6
金属製品	57.1	(37.1)	62.9	37.1
一般機械	88.2	(58.8)	66.7	50.0
その他	75.6	(64.4)	64.4	51.1
非製造業DI	65.5	(52.9)	61.5	53.2
卸売業	75.0	(52.1)	71.1	51.1
小売業	62.2	(48.7)	56.8	43.2
建設業	76.5	(66.2)	68.3	53.3
サービス	53.7	(45.1)	54.6	57.7

● 図表 2-3 原材料(仕入)価格DI推移(23/Ⅱは見通し)



【23年1～3月期】

○製造業

食料品、繊維、窯業土石などで「上昇」超幅が高止まりしている。木材木製品は一部に需給の軟化がみられ、「低下」超となった。

○非製造業

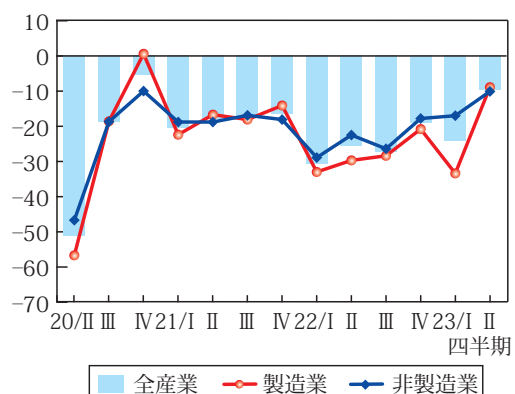
全業種で「上昇」超となった。

(4)採 算

～「悪化」超が続く～

	22/Ⅳ 実績	23/Ⅰ(1-3月) 前回予測	23/Ⅰ(1-3月) 実績	23/Ⅱ 見通し
好 転	8.0	(8.2)	9.0	10.1
変わらず	64.8	(66.9)	57.8	70.1
悪 化	27.2	(24.9)	33.2	19.8
全産業DI	△19.2	(△16.7)	△24.2	△9.7
製造業DI	△20.9	(△16.5)	△33.5	△9.0
食料品	△23.1	(△15.4)	△45.5	△18.2
繊維	△62.5	(△62.5)	△75.0	△12.5
木材木製品	33.3	(△16.7)	△33.3	16.6
窯業土石	△37.5	(△37.5)	△25.0	△37.5
電気機器	△12.5	(6.3)	△23.6	△11.7
輸送機器	△18.5	(△7.4)	△32.2	7.1
金属製品	△18.2	(0.0)	△25.7	0.0
一般機械	△17.6	(△23.5)	△27.7	△22.2
その他	△23.9	(△28.3)	△34.8	△13.1
非製造業DI	△17.9	(△16.7)	△17.1	△10.2
卸売業	△30.0	(△20.0)	△13.3	0.0
小売業	△16.2	(△10.8)	0.0	△15.8
建設業	△25.4	(△20.9)	△19.3	△9.6
サービス	△7.2	(△14.4)	△23.8	△12.9

● 図表 2-4 採算DI推移(23/Ⅱは見通し)



【23年1～3月期】

○製造業

原材料（仕入）価格高騰の影響もあり、全業種で「悪化」超となった。

○非製造業

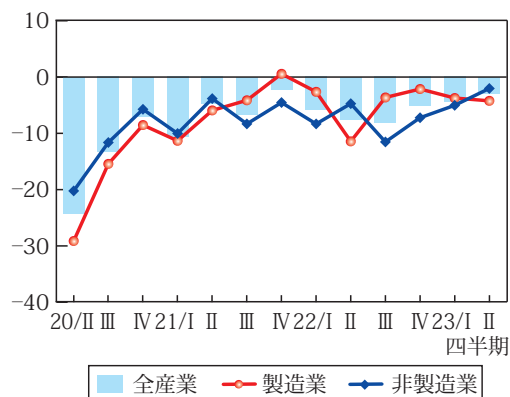
運輸・倉庫、旅館・ホテルなどのサービス業で「悪化」超となり、全体でも「悪化」超が続いた。

(5)設備投資

～「減少」超が続く～

	22/Ⅳ 実績	23/Ⅰ(1-3月) 前回予測	23/Ⅰ(1-3月) 実績	23/Ⅱ 見通し
増 加	10.0	(6.5)	10.5	8.6
横ばい	74.8	(77.9)	74.5	79.8
減 少	15.2	(15.6)	15.0	11.6
全産業DI	△5.2	(△9.1)	△4.5	△3.0
製造業DI	△2.2	(△5.4)	△3.8	△4.3
食料品	△15.4	(△19.2)	4.7	△4.8
繊維	△28.6	(△57.1)	△25.0	△25.0
木材木製品	16.7	(△16.7)	0.0	0.0
窯業土石	△12.5	(△12.5)	△14.3	△28.6
電気機器	△18.7	(△6.3)	5.8	5.9
輸送機器	3.7	(△11.1)	0.0	△3.6
金属製品	6.4	(9.7)	3.0	3.0
一般機械	0.0	(△5.9)	△22.2	△5.6
その他	4.4	(6.5)	△6.6	△6.5
非製造業DI	△7.3	(△11.8)	△5.1	△2.1
卸売業	△4.1	(△8.3)	△4.9	△2.4
小売業	△11.7	(△14.7)	0.0	△5.5
建設業	△10.2	(△13.0)	△12.9	△14.5
サービス	△5.3	(△11.7)	△2.0	7.2

図表 2-5 設備投資DI推移(23/Ⅱは見通し)



【23年1～3月期】

○製造業

全体では「減少」超が続いた。設備投資の目的では、合理化・省力化、老朽化対応が中心であった。

○非製造業

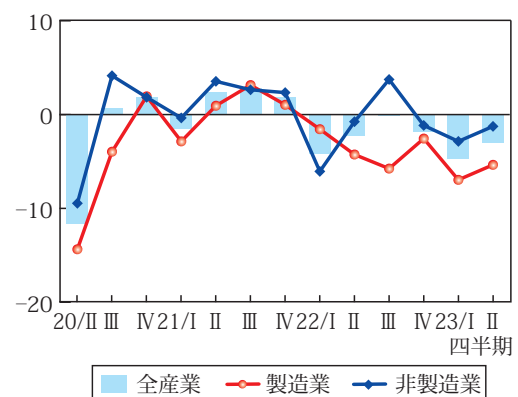
小売業を除き「減少」超となった。設備投資の目的では、老朽化対応、販売能力向上が目立った。

(6)資金繰り

～8割が「普通」～

	22/Ⅳ 実績	23/Ⅰ(1-3月) 前回予測	23/Ⅰ(1-3月) 実績	23/Ⅱ 見通し
余 裕	9.9	(9.4)	8.9	8.5
普 通	78.3	(79.5)	77.5	80.0
窮 屈	11.8	(11.1)	13.6	11.5
全産業DI	△1.9	(△1.7)	△4.7	△3.0
製造業DI	△2.6	(△2.2)	△7.0	△5.4
食料品	3.7	(0.0)	△13.7	△9.1
繊維	△14.3	(△28.6)	△12.5	△25.0
木材木製品	16.7	(16.7)	33.3	16.6
窯業土石	△12.5	(△12.5)	△12.5	△12.5
電気機器	△12.5	(△12.5)	0.0	△11.7
輸送機器	△18.5	(△7.4)	△21.4	△17.9
金属製品	△5.7	(△8.5)	△8.6	△5.7
一般機械	△5.9	(0.0)	5.5	16.6
その他	11.1	(11.1)	△4.5	0.0
非製造業DI	△1.2	(△1.2)	△2.9	△1.3
卸売業	△4.2	(△4.1)	△4.6	△2.3
小売業	△5.4	(2.7)	△2.7	△5.4
建設業	1.5	(4.5)	3.4	5.0
サービス	0.0	(△5.3)	△6.2	△3.1

図表 2-6 資金繰りDI推移(23/Ⅱは見通し)



【23年1～3月期】

○製造業

6業種で「窮屈」超となり、全体でも「窮屈」超が続いた。

○非製造業

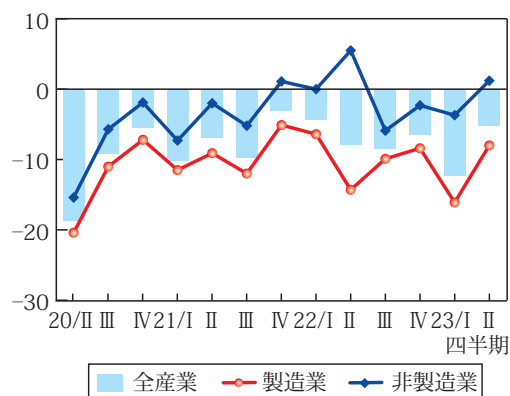
建設業を除き「窮屈」超となり、全体でも「窮屈」超が続いた。

(7)在庫水準

～「過剰」超が続く～

	22/Ⅳ	23/Ⅰ(1-3月)		23/Ⅱ
	実績	前回予測	実績	見通し
不足	9.1	(8.4)	8.6	6.0
適正	75.3	(80.3)	70.5	82.8
過剰	15.6	(11.3)	20.9	11.2
全産業DI	△6.5	(△2.9)	△12.3	△5.2
製造業DI	△8.4	(△5.3)	△16.1	△8.0
食料品	△7.4	(0.0)	△13.7	△4.6
繊維	57.1	(42.9)	△12.5	0.0
木材木製品	△33.3	(△16.7)	0.0	0.0
窯業土石	0.0	(0.0)	12.5	0.0
電気機器	△25.0	(△25.0)	△11.7	△11.7
輸送機器	△7.4	(3.7)	△35.7	△21.4
金属製品	0.0	(0.0)	△14.3	△5.7
一般機械	△11.7	(△5.9)	△11.1	0.0
その他	△17.4	(△17.4)	△18.2	△9.1
非製造業DI	△2.3	(2.4)	△3.7	1.2
卸売業	△12.3	(△6.1)	△8.9	△6.7
小売業	10.8	(13.5)	2.7	10.8
建設業	0.0	(0.0)	0.0	0.0
サービス	0.0	(0.0)	0.0	0.0

● 図表2-7 在庫水準DI推移(23/Ⅱは見通し)



注) 非製造業のうち、建設業、サービス業は対象外

【23年1～3月期】

○製造業

半導体不足など供給の不安定さから、輸送機器や金属製品で在庫確保の動きがあり、全体でも「過剰」超が続いた。

○非製造業

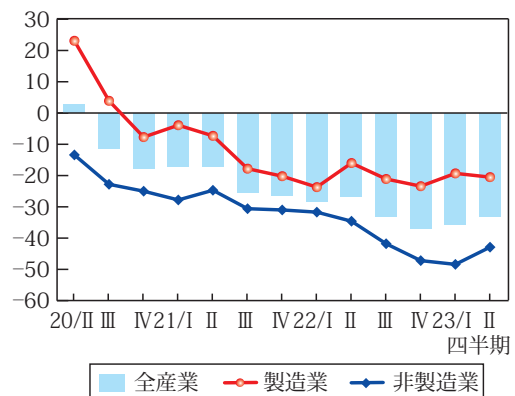
卸売業で「過剰」超が続き、全体でも「過剰」超が継続した。

(8)人 員

～「不足」超が続く～

	22/Ⅳ	23/Ⅰ(1-3月)		23/Ⅱ
	実績	前回予測	実績	見通し
過剰	5.7	(5.3)	8.0	5.6
適正	51.6	(52.5)	48.3	55.7
不足	42.7	(42.2)	43.7	38.7
全産業DI	△37.0	(△36.9)	△35.7	△33.1
製造業DI	△23.4	(△21.8)	△19.3	△20.5
食料品	△22.2	(△18.5)	△31.9	△36.4
繊維	△28.6	(△14.3)	△25.0	△37.5
木材木製品	△33.3	(△33.3)	△50.0	△33.3
窯業土石	△37.5	(△25.0)	△37.5	△37.5
電気機器	△18.7	(△12.5)	△35.3	△29.4
輸送機器	△7.4	(△18.5)	17.8	0.0
金属製品	△28.5	(△20.0)	△17.2	△14.2
一般機械	△11.8	(△11.8)	△5.5	△5.5
その他	△31.1	(△33.3)	△29.5	△25.0
非製造業DI	△47.2	(△48.4)	△48.4	△42.9
卸売業	△30.0	(△26.0)	△35.5	△31.1
小売業	△37.8	(△43.2)	△29.7	△27.0
建設業	△59.7	(△64.2)	△63.3	△51.7
サービス	△51.1	(△51.1)	△52.1	△49.0

● 図表2-8 人員DI推移(23/Ⅱは見通し)



【23年1～3月期】

○製造業

輸送機器を除き、全業種で「不足」超となった。

○非製造業

建設業やサービス業（運輸・倉庫、旅館・ホテルなど）を中心に、大幅な「不足」超が続いた。

3. 経営上の問題点

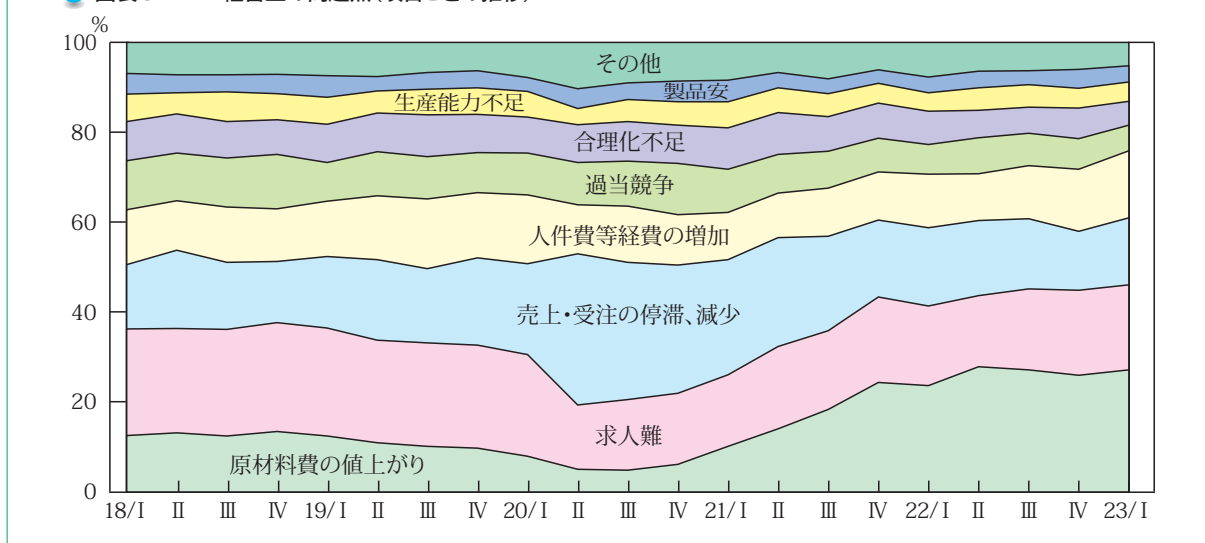
～「原材料費の値上がり」が最多、「求人難」「売上・受注の停滞、減少」が続く～

図表3-1 経営上の問題点

(単位：%)

項目	22年 10～12月期	23年 1～3月期	前期比増減	回答割合の高い業種
原材料費の値上がり	68.2	71.8	3.6	木材木製品、金属製品、食料品
求人難	49.5	49.9	0.4	窯業土石、サービス業、建設業
売上・受注の停滞、減少	34.3	39.4	5.1	木材木製品、窯業土石、輸送機器
人件費等経費の増加	36.2	39.2	3.0	サービス業、電気機器、食料品
過当競争	17.7	15.2	△2.5	卸売業、食料品、小売業
合理化不足	17.7	14.0	△3.7	木材木製品、食料品、輸送機器
生産能力不足	11.5	11.4	△0.1	繊維、電気機器、建設業

図表3-2 経営上の問題点(項目ごとの推移)



注：図表3-2の分母は、本項目（問題点）についての回答数（複数回答）合計。

経営上の問題点をみると、「原材料費の値上がり」「求人難」「売上・受注の停滞、減少」を挙げた業種が多かった。「原材料費の値上がり」を挙げた割合を業種別にみると、木材木製品、金属製品、食料品で高かった。

これまでの動きをみると、20年III期（7～9月期）より「原材料費の値上がり」が増加傾向となる一方、「売上・受注の停滞、減少」が減少傾向となっている。